

市政報告

仙台市議会議員

田村 勝

令和7年10月発行 VOL37

携帯：090-2275-3540

メール：mas.tamura@icloud.com



意見フォーム

このたびの記録的な大雨により、宮城野区東部の各地域では、短時間に激しい雨が降り、道路や住宅の冠水など、深刻な被害が発生しました。被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。ちょうど現在開会中の仙台市議会において、この地域の冠水対策について課題を指摘し、改善を求めたばかりでしたが、10月1日には「記録的短時間大雨情報」が発表され、まさに想定していた懸念が現実となる形で、大きな被害が生じてしまいました。急激な豪雨であったこともあり、従来の備えでは十分に対応しきれなかった面も明らかになっています。現在開会中の市議会において、10月1日の被害を受けて明らかになった課題について、10月3日、会派代表により仙台市の見解を確認しました。私自身も現地を確認し、住民の皆さまから多くの切実な声を伺っています。排水施設や電源設備の不具合など、これまでの教訓が十分に生かされていない点も見受けられ、早急な改善が求められています。こうした現場の実情と議会での議論を踏まえ、課題を一つひとつ明らかにし、再発防止と安全対策の強化に全力で取り組んでまいります。

仙台市議会 第3回定例会 決算総括質疑【10月3日】せんだい自民・参政の会

【質問】この地域の冠水対策については、先週（9月25日）、具体的な課題や対応策について議論したばかりでした。しかし今回、先週の議論では明らかになっていなかった電源の問題など、新たな課題が存在し、周辺地域の信頼を損なう事態もあったと聞いています。この事案も踏まえ、この地域の排水機場や排水ポンプ車等の対応状況について伺います。

【答弁：建設局】

- ・白鳥・高砂地区の雨水を排水する西原雨水ポンプ場は午前9時から全ポンプを稼働。
- ・同地区5カ所の緊急内水排除ポンプのうち、4カ所は午前8時50分頃から順次稼働。
- ・残る1カ所は発電設備の不具合により稼働が遅れ、代替設備の手配に時間を要した。
- ・白鳥地区への排水ポンプ車の配置も検討されたが、配管切替に時間を要するため見送った。
- ・その後、蒲生雨水ポンプ場で電源設備が水没し、3台中2台のポンプが停止した。
- ・ポンプの停止がした蒲生雨水ポンプ場に排水ポンプ車を配置した。

【質問】これまで、この地域では排水施設の稼働をめぐる、震災以降、たびたび問題が発生してきました。そのたびに、「排水施設が確実に稼働し、その能力を十分に発揮できるよう、管理を徹底する」との説明がなされてきましたが、今回の事態を見ると、教訓が十分に生かされているとは言えません。今後、同様の事態を繰り返さないために、具体的にどのような改善・強化策を講じていくのか、副市長に伺います。

【答弁：副市長】

- ・白鳥・高砂地区で浸水被害が生じた際には、必要な対応を行ってきたが、今回の大雨対応を踏まえ、さらなる改善が必要と考えている。
- ・今後は、代替発電機により、緊急内水排除ポンプの電源確保を速やかに行うとともに、蒲生雨水ポンプ場の確実な運転確保のための対策を講じる。
- ・突発的な大雨に備え、ポンプ場整備によるハード対策に加え、迅速な排水対応訓練などのソフト対策の充実を図り、地域の安全確保に必要な取組を早急に進める。

今回の記録的な大雨に伴い、宮城野区東部では道路や住宅の冠水など深刻な被害が発生しました。10月3日現在、人的被害は確認されていませんが、床上浸水や車両の被害が多く報告されています。現在、危機管理局において被害状況や対応経過の詳細を整理中です。次回の市政報告にて、全容と今後の対応方針について詳しくご報告申し上げます。まずは取り急ぎ、現時点での状況をご報告いたします。

【福室・蒲生排水区と今回の対応状況】

福室排水区は白鳥・中野・福室地区の雨水を排水対象とし、西原雨水ポンプ場（位置①）を経由して仙台港へ排水しています。この地域では以前から排水能力不足が課題となっており、令和9年年央の供用開始を目標に、ポンプ増設工事が進行中でした。しかし、まさに整備途上の10月1日、記録的な短時間豪雨が地域を襲い、既存施設だけでは対応しきれない脆弱性が露呈しました。また、和田新田堀にある5カ所の緊急排水ポンプのうち、福室一丁目排水施設（位置②）では発電設備の不具合で稼働が遅れ、初動対応に支障が生じました。一方、蒲生雨水ポンプ場（位置③）は毎分25mプール1杯分を排水できる能力がありますが、電源設備の水没で3台中2台が停止し、本来の3分の1程度の能力しか発揮できませんでした。その結果、蒲生地区での排水機能が大きく低下し、冠水被害の拡大要因となりました。

【初動対応の遅れと課題】

台風であれば進路や雨量を事前に予測でき、ポンプ点検や予備電源配置などの準備が可能です。しかし今回は、予測困難な集中豪雨だったため備えが間に合わず、初動対応の遅れが被害を広げた一因となりました。台風とは異なる急激な降雨への即応力不足が課題として明確になりました。

【課題整理】

今回の豪雨では、①福室排水区の能力不足への対策が整備中だったこと、②蒲生ポンプ場の電源トラブル、③予測できない豪雨による初動の遅れが重なり、短時間の豪雨に対応しきれない構造的な課題が顕在化しました。今後は、整備の着実な推進とともに、初動体制強化が不可欠です。

罹災証明書
窓口設置
(4日、5日)

災害ごみ
減免手続き等

